

世界で活躍するトマス・サラセーノの日本で過去最大規模の展覧会

Arts Towada 十周年記念「インター + プレイ」展

第 2 期：2021 年 10 月 1 日(金) – 2022 年 1 月 10 日(月・祝) 十和田市現代美術館



トマス・サラセーノ 《クモのオラクルカード》2021 年 撮影：Studio Tomás Saraceno
画像提供：作家、Arachnophilia

十和田市現代美術館は、Arts Towada 十周年を記念した全3期にわたる企画展「インター + プレイ」を昨年より開催しています。2021年10月1日(金) - 2022年1月10日(月・祝)に開催する第2期では、当館常設展示作家の一人であるトマス・サラセーノ（アルゼンチン出身、ドイツ在住）の作品を展示します。サラセーノは、環境正義と異種間の共生を掲げ、地上だけでなく宇宙規模まで視野を広げプロジェクトを展開しているアーティストです。当館の常設展示作品《オン・クラウド（エア・ポート・シティ）》とも繋がりのある「バルーン」と「クモ」をキーワードに、サラセーノの近年の代表作を紹介します。

本展では、ジョロウグモなどの日本のクモの伝承に着想を得た《クモのオラクルカード》の新作3点が初公開されます。2019年に発表された本シリーズは、カメルーンとナイジェリアに住むマンビラ族のクモを使った占いから着想を得て制作されたものです。オラクルカードにも登場するミズグモの姿に迫っているのが、出展作品《大気の海の底に棲む(水生クモ)》です。水中で生活するその珍しい生態から、ある種が新しい環境に適応するために生活様式を変化させる可能性を提示します。

《熱力学の組曲》は、空気や人の動きによって、展覧会中にドローイングを生み出すインスタレーションです。また、複数人が共同し、誰でもアクセスできる方法で彫刻《エアロソーラー》を飛行させることができるキット《エアロシーン・バックパック》を展示します。バルーンにまつわる作品群は、化石燃料を使用せず、空気を汚染しない未来を描くサラセーノが協力者と展開するプロジェクト「エアロシーン」の理念を展示室で表現します。

なお、鈴木康広《はじまりの果実》、目 [mé] 《space》内に新たに《movements》を展示に加えるほか、問題行動トリオによるパフォーマンスも開催します。

■ 第 2 期出展作家・・・トマス・サラセーノ

■ 全 期・・・・・・・・鈴木 康広 [十和田市現代美術館 前庭に展示]、目 [mé] [まちなかに展示]

■ パフォーマンス・・・問題行動トリオ（野村 誠+佐久間 新+砂連尾 理）

第 2 期の見どころ

1. サラセーノによる日本初公開の作品を多数紹介
2. まちなか展示 目 [mé] 《space》内で《movements》を公開

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

【 見どころ 】

1. トマス・サラセーノによる日本初公開の作品を多数紹介

異なる種のクモの巣を組み合わせた「混成のクモの巣」シリーズの一作や、燃料を使用せずに飛行する彫刻エアロソーラーのキットを収めた《エアロシーン・バックパック》など、サラセーノの近年の代表的な作品を日本で初めて紹介します。

2. まちなか展示 目[mé]《space》内で《movements》を公開

第2期では、第1期に現代アートチーム目[mé]が制作した、昭和レトロなスナックがあった二階建の建物にホワイトキューブが埋め込まれている

《space》内に《movements》を展示します。《movements》は、俯瞰してみると無数の黒い生き物の群れのように見えますが、近寄ってみると時計の針が音を刻みながら機械的に動いているのがわかります。



目[mé] 《movements》2019年
「非常にはっきりとわからない」展示風景（千葉市美術館）
画像提供：作家

【 第2期 出展作家 】

トマス・サラセーノ Tomás SARACENO



© Alfred Weidinger, 2015

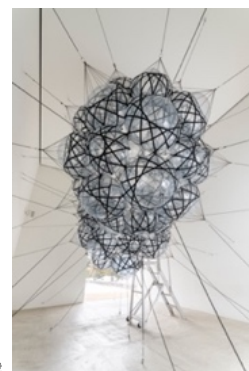
1973年トゥクマン(アルゼンチン)生まれ。ベルリン在住。芸術、生命科学、社会科学など様々な分野から着想を得て制作を行う。宙に浮く彫刻やコミュニティ・プロジェクト、鑑賞者が内部で過ごすことができるインスタレーションを通じて、サステナブルな新しい生き方や、自然環境への向き合い方を鑑賞者に問いかける。サラセーノは、多分野を横断する芸術コミュニティエアロシーンの活動の一環として、環境を損なうことなく空気を利用した作品《ムセオ・エアロ・ソーラー》や、燃料を使わない気球での飛行プロジェクト《エアロシーン・パチャでの飛行》などを展開している。また、蜘蛛の巣への関心から制作したウェブ上のプラットフォーム Arachnophilia.net や Arachnomancy App で、《絶滅に対抗するためのマッピング》プロジェクトの活動も行っている。近年の展覧会に、「Aria」（ストロツィ宮、フィレンツェ、イタリア、2020）、第58回ヴェネチア・ビエンナーレ（イタリア、2019）、「ON AIR」（パレ・ド・トーキョー、パリ、フランス、2018）がある。



トマス・サラセーノ 《エアロシーン・バックパック》2016年
撮影：Didzis Grodzis 画像提供：作家、Aerocene
CC BY-SA 4.0 license

十和田市現代美術館 常設作品《オン・クラウド（エア-ポート-シティ）》

壁や天井から張り巡らされたロープによって透明のバルーンが組み合わせられ、浮かんでいる雲のように見えます。地上から浮き、形を変形することができる開かれた造形は、作家が構想している都市クラウド-シティーズ/エア-ポート-シティが目指す、地上の国境や領土などの観念からの解放を想像させます。また、一つ一つの球体が自立しながらもしっかりと結びついている様子は、あらゆる生物が影響を受け合う自然界の相互関係を連想させます。



トマス・サラセーノ
《オン・クラウド（エア-ポート-シティ）》
2008年 撮影：小山田邦哉

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

【 通年展示作家 】

鈴木 康広 (すずき・やすひろ)



撮影：中川正子

アーティスト。1979年静岡県生まれ。身近なものに新鮮な切り口を与える作品によって、ものの見方や世界のとらえ方を問いかける活動を続けている。2014年に水戸芸術館、2017年、箱根 彫刻の森美術館(神奈川)にて個展を開催。瀬戸内国際芸術祭 2010 に出展した《ファスナーの船》は、2018年には隅田川を航行し話題に。2011年、第4回モスクワビエンナーレ(ロシア)出展。第1回ロンドン・デザイン・ビエンナーレ 2016(イギリス) 日本代表。2014 毎日デザイン賞受賞。武蔵野美術大学教授、東京大学先端科学技術研究センター客員研究員。



鈴木 康広 《はじまりの果実》2020 年
"Arts Towada 十周年記念「インター + プレイ」展" 展示風景
撮影：小山田邦哉

目 [mé]



撮影：津島岳央

2013年活動を始める。アーティスト 荒神明香、ディレクター 南川憲二、インストーラー 増井宏文を中心とする現代アートチーム。個々の技術や適性を活かすチーム・クリエイションのもと、特定の手法やジャンルにこだわらず展示空間や観客を含めた状況/導線を重視し、果てしなく不確かな現実世界を私たちの実感に引き寄せようとする作品を展開している。主な作品に《たよりない現実、この世界の在りか》(資生堂ギャラリー、東京、2014)、《Elemental detection》(さいたまトリエンナーレ、2016)などがある



目 [mé] 《space》2020 年
"Arts Towada 十周年記念「インター + プレイ」展" 展示風景
撮影：小山田邦哉

【 パフォーマンス 】

問題行動トリオ (野村 誠+佐久間 新+砂連尾 理)

2018年、香港の大型福祉施設に野村誠が3ヶ月レジデンスしていた際に訪問した旧知のダンサー佐久間新、砂連尾理と結成した。2019年、「ノムラとジャレオとサクマの問題行動ショー ヨソモノになるための練習曲」(豊中市立文化芸術センター、大阪)を開催。

第2期パフォーマンス「三本木散歩」

日程：2021年11月6日(土)、7日(日)



問題行動トリオ《夜美術館の夏祭り》2021 年
"Arts Towada 十周年記念「インター + プレイ」展"
撮影：小山田邦哉

野村 誠 (のむら・まこと)



作曲家/ピアニスト、1968年名古屋市生まれ。個展「Organic Vegetable」(アートスペース虹：京都)、グループ展に、「肌理と気配」(ACAC：青森)、「Archway Sound Symposium」(Five Years Gallery：ロンドン)、「野村誠の音楽室」(広島市現代美術館：広島)、「Notations 21」(Jeanie Tengelsen Gallery 他：アメリカ)など。現在、日本センチュリー交響楽団コミュニティプログラムディレクター。

佐久間 新 (さくま・しん)



撮影：草本利枝

ジャワ舞踊家、1968年大阪市生まれ。コラボ・即興・コミュニケーションに関わるプロジェクトを推進。からだに問いかけることとそこから生まれる言葉で話す「からだトーク」(大阪大学)、障がいのある人と新しいダンスを創る「ひるのダンス」(たんぼぼの家・奈良)等。共著に「ソーシャル・アート 障害のある人とアートで社会を変える」(文芸出版)。

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷(おおたに)

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

砂連尾 理（じゃれお・おさむ）

撮影：三浦博之

振付家／ダンサー、1965年大阪市生まれ。1991年寺田みさことダンスユニットを結成。近年はソロ活動を中心に、障がい者や高齢者、避難所生活者などとのプロジェクトも手がけ、アートと社会を繋ぐ活動を展開している。著書に「老人ホームで生まれたくとつとつダンス>ーダンスのような、介護のようなー」（晶文社）。立教大学映像身体学科特任教授。

【 イベント 】**■ 問題行動トリオパフォーマンス「三本木散歩」**

日にち：2021 年 11 月 6 日（土）、7 日（日）

時間：13:30 – 15:30 / 会場：十和田市現代美術館 周辺、十和田市まちなか / 料金：未定

■ 学芸員による企画展ギャラリートーク

日にち：2021 年 10 月 10 日（日）、11 月 10 日（水）、12 月 10 日（金）、1 月 10 日（月・祝）

時間：11:00 – 12:00 / 会場：十和田市現代美術館 企画展示室 / 料金：無料※要企画展チケット

※上記の他にも、会期中にイベントを予定しています。詳細は後日発表します。

※新型コロナウイルス感染症の影響により、日程や実施内容が変更となる場合があります。

【 開催概要 】

展覧会名： Arts Towada 十周年記念「インター + プレイ」展 第 2 期
 会 期： 2021 年 10 月 1 日（金） – 2022 年 1 月 10 日（月・祝）
 開館時間： 9:00 – 17:00（最終入場 16:30）
 休 館 日： 月曜日（祝日の場合はその翌日）、12 月 27 日（月） – 1 月 1 日（土）
 会 場： 十和田市現代美術館
 観 覧 料： 企画展個別料金 一般 800 円。団体（20 名以上）100 円引き。高校生以下無料。
 主 催： 十和田市現代美術館
 後 援： アルゼンチン共和国大使館、東奥日報社、デーリー東北新聞社、青森放送、青森テレビ、
 青森朝日放送、十和田市教育委員会
 協 力： ゲーテ・インスティトゥート東京
 キュレーター： 金澤 韻、鷺田 めるろ
 アシスタントキュレーター： 見留 さやか、中川 千恵子、里村 真理、外山 有茉



Embajada de la
República Argentina
Japón



お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

Arts Towada とは

十和田市ではより魅力的で美しい官庁街通りの景観を作り出すとともに、未来へ向けた新しいまちづくりの一環として「Arts Towada」計画に取り組んできた。この計画は官庁街通りという屋外空間を舞台に、通り全体を一つの美術館に見立て、多様なアート作品を展開していくという世界でもまれな試みである。アート作品に加え、十和田市の歴史や美しい自然、そして地域のもつ活力を引き出し未来へつなげていくような仕掛けを随所に盛り込むことで、十和田市を個性あふれる『アートの街』『感動創造都市』として国内外の多くの人々に印象づけることを目指す。その中核施設となる十和田市現代美術館が 2008 年度に開館、引き続いて美術館向かい側の跡地の整備およびシンボルアートの設置を行い、Arts Towada は 2010 年春に完成。

十和田市現代美術館

2008 年に東北初の現代美術館として開館。草間彌生、奈良美智、塩田千春、ロン・ミュエクなど世界の第一線で活躍するアーティストらの作品を常設展示。美術館の中だけでなく、周辺には公園のようなアート広場があり、子どもから大人まで散策しながら魅力あるアートとのふれあいを楽しむことができる。

所在地：青森県十和田市西二番町 10-9

TEL：0176-20-1127 FAX：0176-20-1138 web：www.towadaartcenter.com



お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

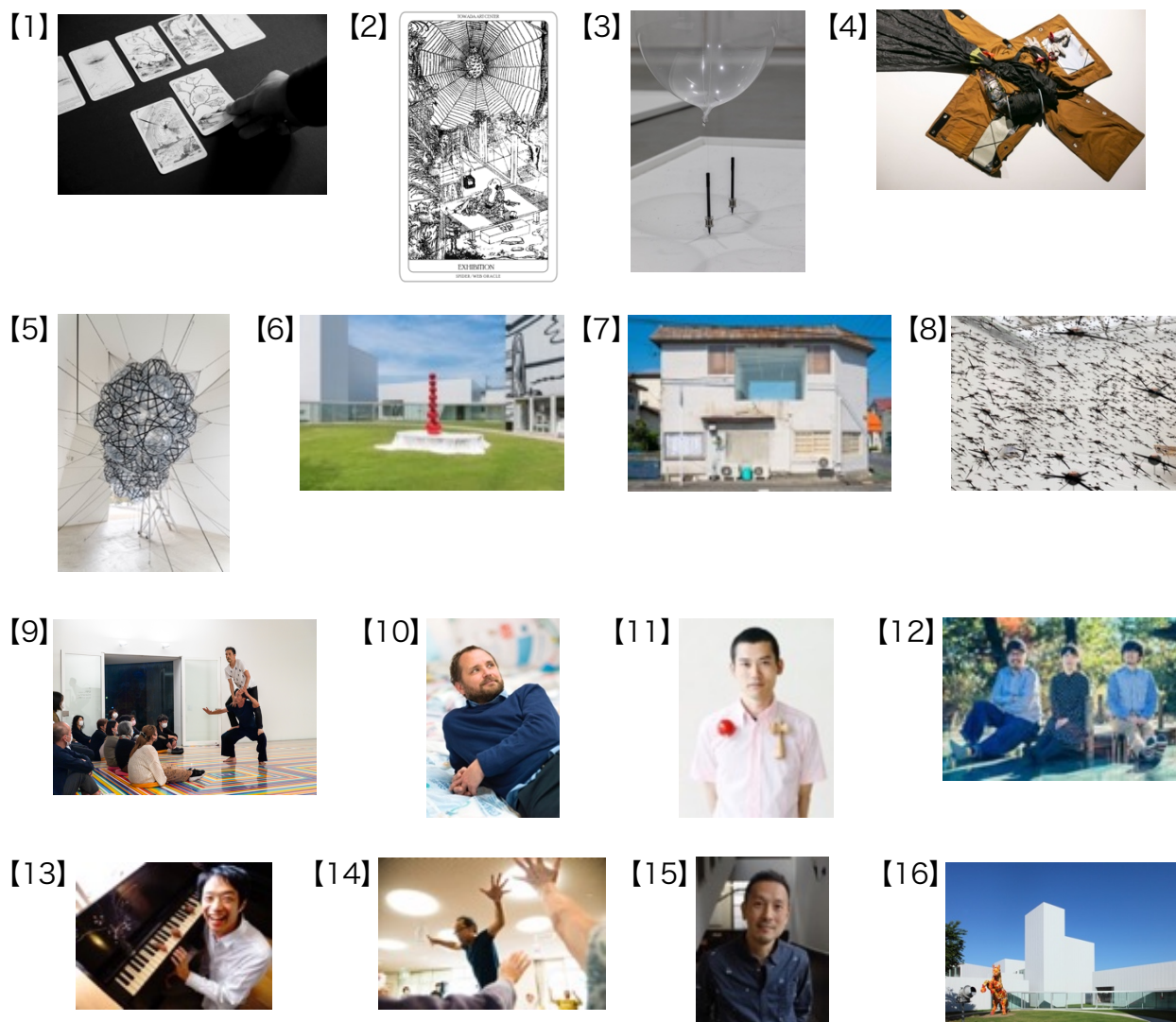
【 広報用図版 】

ご希望画像の作品番号にチェックを入れ、申込みフォームの項目をご記入の上、本用紙を FAX または E-mail にてお送りください。

FAX : 0176-20-1138 / E-mail : press@towadaartcenter.com

TEL : 0176-20-1127 / 住所 : 034-0082 青森県十和田市西二番町 10-9

十和田市現代美術館 広報 大谷 行



媒体名

媒体ジャンル 新聞／雑誌／美術誌／テレビ／WEB／その他 ()

御社名

御担当者名

所在地 〒

電話

メールアドレス

【 画像ご使用に際して 】

- クレジットは全て明記してください。
- トリミングはご遠慮ください。
- キャプション等の文字が画像に被らないよう、レイアウトにご配慮ください。
- ご掲載の際は恐れ入りますが校正の段階で美術館までご確認ください。

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com